

既収載品目（医薬品各条（生薬等））の生薬の性状の鏡検に関する記載の改正について （意見募集）

対象品目の生薬の性状について、鏡検の際に縦切片と横切片で確認する要素を区別した記載とする改正を行うとともに、関連部分の記載を整備します。

1. 対象品目

カッコン
シンギ
センナ
タンジン
ブシ
ボクソク
モクツウ

2. 改正案

カッコン

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は、～省略～
本品の横切片を鏡検（5.01）するとき、師部には結晶細胞を伴う繊維束、木部には道管及び木部繊維が著しく、柔組織には多数のでんぷん粒が認められる。でんぷん粒は多面体の単粒、まれに2～3個からなる複粒で、径2～18 μm、多くは8～12 μm、中央にへそ又は欠裂を認め、層紋がある。縦切片の鏡検（5.01）では、師部繊維の周囲の結晶細胞は列をなす。

シンギ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は～省略～
本品の横切片を鏡検（5.01）するとき、コルク層は6～8細胞層で、その内側に2～4細胞層のやや厚壁化した柔細胞がある。二次皮層は放射組織が明瞭で、しばしば外側に裂隙が認められる。師部には師部繊維束が階段状に認められる。木部は放射組織が明瞭で、道管の周囲に木部繊維が認められる。師部繊維束及び木部繊維束の外辺にシュウ酸カルシウムの単晶を含む薄壁性の結晶細胞があり、単晶の径は7～20 μmである。柔組織中に認められるでんぷん粒は単粒及び2～8個の複粒である。縦切片の鏡検（5.01）では、道管は網紋、階紋、有縁孔紋及びはらせん紋道管で、師部繊維束及び木部繊維束の周囲の結晶細胞は列をなす。

センナ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は～省略～本品の横切片を鏡検

（5.01）するとき、両面の表皮は厚いクチクラを有し、多数の気孔及び厚壁で表面に粒状突起のある単細胞毛がある。表皮細胞はしばしば葉面に平行な隔壁によって2層に分かれ、内層に粘液を含む。両面の表皮下に1細胞層の柵状組織があり、海綿状組織は3～4細胞層で、シュウ酸カルシウムの集晶を含む。葉脈部には、維管束に隣接してシュウ酸カルシウムの単晶を含む結晶細胞が認められる。縦切片の鏡検（5.01）では、維管束の周囲の結晶細胞は列をなす。

タンジン

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は～省略～
本品の横切片を鏡検（5.01）するとき、最外層は通常コルク層で、まれにその外側に柔組織又は内皮がある。二次皮層中に厚壁細胞が数個散在するか又は認められない。形成層は明瞭である。二次木部の道管は放射状に配列し、しばしば中心部に向かって合一する。道管周囲に木部繊維が認められる。一次木部は2～3部分に分かれる。縦切片の鏡検（5.01）では、二次木部の道管は主に孔紋及び網紋道管である。

ブシ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状
1) ブシ1 本品は～省略～本品の切片を鏡検（5.01）するとき、道管は孔紋、階紋、網紋又ははらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は通例糊化しているが、ときにでんぷん粒が認められるものもある。でんぷん粒は円形若しくは楕円形で径2～25 μmの単粒、又は2～10数個の複粒として認められる。でんぷん粒のへそは明らかである。
2) ブシ2 本品は～省略～本品の横切片を鏡検（5.01）するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形で、短径30～75 μm、長径60～150 μmの厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い1細胞層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群はV字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。縦切片の鏡検（5.01）では、道管は孔紋、階紋、網紋又ははらせん紋道管である。
3) ブシ3 本品は～省略～

90 本品の切片を鏡検 (5.01) するとき、道管は孔紋、階紋、
91 網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぶん粒は円形
92 若しくは楕円形で径2～25 μmの単粒、又は2～10数個の複
93 粒として認められる。でんぶん粒のへそは明らかである。

94

95

96 ボクソク

97 **生薬の性状の項を次のように改める。**

98 生薬の性状 本品は ～省略～

99 本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、コルク層にはコルク
100 石細胞が散在し、二次皮層には師部繊維群がほぼ階段状に
101 並び、大きな石細胞群が不規則に配列する。柔組織中にシュ
102 ウ酸カルシウムの集晶が散在する。石細胞や師部繊維細胞に
103 隣接してシュウ酸カルシウムの単晶を含む結晶細胞が認めら
104 れる。縦切片の鏡検 (5.01) では、繊維細胞に接する結晶細
105 胞は列をなす。

106

107

108 モクツウ

109 **生薬の性状の項を次のように改める。**

110 生薬の性状 本品は ～省略～

111 本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、主として結晶細胞
112 を伴う繊維束と石細胞群とからなる輪層が師部の外辺を弧状
113 に囲んでいる。二次皮層の放射組織は単晶を含む厚壁細胞か
114 らなる。形成層付近は明らかで、髄周辺の細胞は極めて厚壁
115 である。木部放射組織及び髄周辺の柔細胞にはシュウ酸カル
116 シウムの単晶及びでんぶん粒を含む。でんぶん粒の径は8
117 μm以下である。縦切片の鏡検 (5.01) では、繊維束の周囲の
118 結晶細胞は列をなす。

119

120